

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100064		
法人名	株式会社ケア・グループ		
事業所名	グループホーム箱田		
所在地	前橋市箱田町206-4		
自己評価作成日	平成29年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成29年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念に掲げてあるように『高齢者同士が自由に自分らしく生きる』とあるように、また快眠快食快便をモットーとし、旬の食材を使い手作りの物を提供できる様、キッチンのスタッフを専門に置き料理に力を入れています。そのためか最近、利用者様の白髪がだいたい黒髪に生え変わっております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、居室、事務所・食堂を含む共有スペースにおいて清掃が行き届いており、掲示物やレクリエーションを通じて作成した作品を季節感が感じることができるように掲示して、利用者との会話などにも活かしている。毎日囲むテーブルの上には、手作りの竹細工の器に、自宅の雰囲気味わうことができるよう、職員の庭に咲く花が日常的に飾られている。食事は、専任の調理員を配置して、旬の食材を取り入れた手作りの食事を提供し、それぞれの利用者の食事にかかる時間に合わせた食事開始のタイミングで提供している。その他、誕生日会には、職員手作りのホールケーキでお祝いをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい所へ提示し、朝の申し送りの後唱和し共有実践につなげています。	朝礼時に、唱和の時間をもうけて活用に心がけている。特に利用者同士が自由に自分らしく生きるを支えるために、生活スタイルを施設都合や職員都合で変更することがないように見守りを行い、その方らしさであることを話し合い、共有した支援としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民生委員さんなどに運営推進会議に出席して頂き地域の情報やいきいきサロンの出席など声掛けをして頂き参加させて頂いております。また、近所の中学生や福祉大の学生さんなど研修も受け入れております。	参加可能な利用者が、地域のいきいきサロンに出かける習慣がある。その他、中学生の職場体験の受け入れや、夏祭りには事業所の駐車場を開放し神輿の休憩場として提供をしている。夏祭りに御輿の休憩所として提供することで、利用者は必然的に神輿を見学でき交流を楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解を得られるよう、また協力を頂けるよう民生員さんにコンタクトを取って生活しております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席した方より意見など出して頂きサービス向上に活かしております。	民生委員、包括センター職員、自治会長、家族の方(3人づつ交替)の出席の協力を得ているが、多忙により欠席者が出ている現状にある。会議内容は、施設状況の報告が主になっており、今後意見などを得られるよう努力していく考えである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方々にも出席して頂きパンフレットや情報提供などを頂いております。	市担当課とのコンタクトは、法人代表が行い関係を築いている。ヒヤリハットをまとめた報告、介護保険利用の申請など、直接窓口に出向いて行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議などで研修やカンファレンスを行う拘束をしないケアを行うよう話し合っております。	直近一年に職員交代があり、拘束についての申し送りを行なっている。車いす利用の方についてベルト着用の必要な場合は、事前に家族に説明を行い承諾を得て、安全のための必要な生活動作ケアが行なわれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し学ぶ機会を作り、その内容を共有、虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めています。また、日常においても職員同士で声を掛けあうなどしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会を持ち活用支援していきたいと考えております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にひととおり説明させて頂き、自宅に持ち帰りゆっくり熟読し納得した上でサインを頂くようにしております。その際、不安や希望など聞いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時など意見などを聞いております。意見箱も用意しており直接言いにくい事などは意見箱に入れて頂くようにもしています。	意見聴取については、面会時や運営推進会議内に行っている。また、意見箱の設置を試みている。会議に出られない家族の方には会議録を郵送して報告を行なうことで、理解を深めるための手段としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議時などに話し合う機会を設けております。	毎月の定例会議で、職員との話し合いの機会をもうけている。勤務希望や給与の意向については、直接法人代表と各職員により相談を行なっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力や実績・勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように心掛けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに内外の研修を受ける機会を設けるよう努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の相互訪問等を通じてサービスの向上に取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションが可能な場合は本人が困っている事や不安な事、要望等を確認し安心を確保する等の関係作りを心掛け、コミュニケーションを多く取り、話し合いをし環境づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所面会時、家族が困っている事、要望を聞くなどコミュニケーションをとり関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を基に行動や発する言葉などを観察し見極め、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と暮らしを共にする者同士の関係を築くため利用者の知識や知恵に耳を傾け現在の状態が少しでも長く保たれるよう心掛けております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの様子など連絡を密にして本人の希望など、職員に出来ない所は協力して頂き共に本人を支援していくような関係を作っております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	一緒に働いた同僚や同じ団地のお隣さんだった方など様子を見にきてくださいます。	入居時に、職員は、利用者・家族からこれまでの生活歴等の聞き取りをして、処遇に活かしている。そうしたなか、一人の利用者においては、知人に面会に来て頂き交流を継続した事例もある。	利用者の入居前の生活者としての情報を記録にして職員で共有を図り、入居後にも関係継続が図れるための課題や支援について職員間で話し合い、支援に活かされることを期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の利用者様の様子を観察し、席を変えたりまた孤立せず仲良く関わり合えるよう支援できるように努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の様子など退所先に出向き様子をみたりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人に聞き、把握に努めています。本人の意向の確認が難しい場合は日々の関わりの中で家族の意向や生活歴をふまえ、カンファレンスで検討しています。	日常生活支援の場において、生活の意向などを聞きとっている。その内容は、毎月の定例会議で報告がおこなわれ、職員間で情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所面談時、家族から生活歴や馴染みの暮らし方や生活環境等の詳細を聞き、本人からは日常の会話の中での把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録、日々の様子、職員への聞き取り等で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、アセスメントを基にカンファレンスを行い課題やケアについて話合っています。家族とは面会時、運営推進会議時にお話しをし、作成に反映させています。	利用者の状態を直接処遇している職員が、アセスメント記録を行っている。それをもとに、介護支援専門員が計画作成し、3ヶ月に一度見直しをしているが、入退院をした利用者の介護計画書が、変更されていない事例があった。	モニタリングを活かしたニーズ把握に努め、その時々現状に即した即した介護計画を作成して、それをもとに支援が行われることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの個別記録を読み込み、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応し柔軟な支援やサービスなど多機能化に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方には日々の挨拶から始まり、顔見知りになって言葉を交わしながらホームでの暮らしを理解・協力して頂ける様、働きかけております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人とその家族と話をしかかりつけ医を決めております。また、月2回の主治医の往診時に日々のデータ等の情報提供をしております。	入居時に、家族・本人から、かかりつけ医の希望を聞き、事業所の協力医（訪問診療）の説明を行い、ほとんどの方が協力医の訪問診療を利用している。歯科・診療内科の受診は家族支援で行われ、受診には職員から必要な情報の提供が行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診担当看護師や看護師長と共に利用者様の様子や不調時など連絡を取り個々に利用者が痛切な受診や看護を受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には利用者が安心して治療を受けられるよう病院の看護師や相談員とのコンタクトを取り、情報交換をし普段から病院との良い関係を保つよう努力しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては医療が伴うぎりぎりのところまでホームで様子を見させて頂く事をご家族様に説明し納得を頂き支援させて頂いています。	医療行為が必要な状態、食事がとれなくなった状態を、重度化の時期であると職員が認識を持ち、訪問診療医・家族との相談をもとに、入院としている。入院に至るぎりぎりのところまでの支援を提供したいと考え実践している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルの用意をしており職員は応急手当や初期対応の訓練など消防職員より指導をお願いし受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様も参加にて消防署による指導などを受け年2回の避難訓練などを行い民生委員さんや、隣接している小規模多機能あづまにも協力をお願いしております。	職員の連絡網は、いち早く駆けつけられる順番で作成されている。年2回の避難訓練は昼夜想定で行い、数日分の備蓄がある。隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と協力体制があり、今後、近隣者への協力依頼を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも人格尊重の介護を掲げており、ひとりひとりの人格を大切に誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けなどをしよう話し合いケアに取り組んでいます。	日々の支援では、利用者に声かけする際、驚かせないように声の大きさに気をつけている。また、生活動作においては、基本自立行為を見守るケアを実践し、トイレの外で待機するなど、プライバシーへも配慮している。希望により同性介護がおこなわれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できない方が何人かおられますが表情や片言の言葉などをくみ取り、本人の希望を探り自己決定できるようにしたいと思っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースを大切に言動や行動・表情等から気持ちを察し本人の希望にそった支援を大切にしています。食事もゆっくりその人に合ったペースで介護支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に一度の美容カットを行う整容については自分で出来る方、出来ない方、個々に合わせ声掛けなどをし意識を促しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせた形状の食事を3名のスタッフが交代で作っています。オシボリの準備等職員と一緒に利用者のできる事を行っています。	季節を感じる事ができる庭園に咲く花を職員が持ち寄り、食卓の手作りの竹製の器に飾り、落ち着いてテーブルを囲む環境づくりと会話の題材づくりになっている。利用者ごとに異なる食事にかかる時間を考え、食事開始に時間差をつけた取り組みも行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分補給は個々に合わせた形状で状態の変化を見ながら支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせた口腔ケアを行っています。義歯の不具合なども往診にて調整できる所はして頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせた排泄パターンを把握する努力をトイレ誘導、パット交換を行っています。トイレでの排泄の自立に向けた支援も行っていきます。	トイレでの排泄行為が継続してできるよう、排泄記録をもとに声かけや行為への部分的介助を行っているが、自立を支える視点での各利用者のADL(日常生活動作)の情報共有にはいたっていない。便秘対策には、事業所が考案した青汁(牛乳・小松菜混合ドリンク)の提供により、便秘解消につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、体操、歩行練習、足上げ運動などをしたり独自の素汁を作り摂取したり整腸剤の使用により便秘予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本午前中入浴としておりますが本人の体調などを考慮して別の時間にすることもあります。	脱衣所と浴室がプライベート空間になるよう、個別(一対一)対応の介護を提供している。浴槽には、ゆずや殺菌効果を期待した木酢液を入れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンや状況に応じて休息したり安心して眠れるよう工夫しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェックは二重三重に出来るよう、誤薬のないようにしております。薬の内容については主治医に相談をし、現状に合ったものを往診時に処方して頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様に洗濯物をたたんで頂いたり、個々にオンボリを作ったり役割分担を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームでの行事ドライブや御家族様やなじみの方などをお願いしたり、花見や果物狩りなどに出掛けています。徐々に高齢になり参加できない方もおりますがおみやげにて楽しんでおります。	日課とした外出支援は行われていないが、外に出たがる利用者には、事業所の周りを職員と一緒に歩くこともある。お花見や果物狩りなど行事として季節ごとのイベントを企画し、外出における交流が行なわれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホーム箱田でのお金の使用はないのでご利用者様は持っていませんが御家族様と外出されたときなどおつかいされてくる事はあります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと希望はありますが、自らする事が難しくなっており、職員が内容を聞き、御家族様の御都合の良い時間にお話ししております。年賀状や誕生カードなど届く事もあります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	年中行事や四季折々のカレンダーなどを作り写真を撮り居室に飾ったり、四季の食べ物を頂いたり季節が分かるような工夫をしております。	季節感を味わうことができる飾り付けを行うことを基本に、日常的なレクリエーションで利用者と一緒に作成した作品を飾っている。今月は七夕飾りに、利用者の願い事を書いた短冊がかけられている。テーブルには、日常的に庭に咲く小さな花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにテーブルやソファが置いてあり自分の指定の席はありますがそれとは別に好きな所にてテレビや会話など楽しませております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には葉書や写真など、また自分の作品などを持込み、中にはテレビも入っている方もあります。職員と利用者とのコミュニケーションと、レベルダウンを最小限にするため和室、ベッドに居る方もおります。	身体状態を考えた機能低下防止の為の動線への配慮など、居心地よく過ごせる整理整頓を含む支援が行われている。なかには、家族の協力により居室整備が行われる方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	皆で同じレクリエーションをする事が、高齢だったり個々の事情により出来なくなってきたためその方の状態に合わせたレクリエーションを工夫しております。		